

『第3回 VMAT 治療計画実習講習会に参加して』

信州大学医学部附属病院 放射線部 山本隆史

当院では医学物理士のポストは無く医学物理士の有資格者であっても診療放射線技師として業務しております。治療計画は全て医師が行い、計画後の確認は診療放射線技師が担当しているため、診療放射線技師は治療計画の経験が無く、計画の良し悪しは計画を立案した医師の考えに大きく依存しているのが現状です。この現状を少しでも改善するため、先ず医学物理士を有した診療放射線技師が治療計画に関する技術を身に付ける必要があると考え、今回の講習会に参加しました。

講習会は1日目の前半で VMAT 治療計画の手順の講義、続いて TG-119 に準じた計画実習、後半から2日目にかけて前立腺や頭頸部の臨床症例を用いた計画実習を行いました。講習会の大半が治療計画の実習にあてられ、実習は受講生が途中分からない点を講師に質問しながら、それぞれのペースで計画を立てるという形式で進められました。私は治療計画初心者であったためかなり苦戦しましたが、講師の先生方にアドバイスをいただきながら計画を進めることができました。実際に計画してみると前立腺に比べて頭頸部の計画ではなかなか標的とリスク臓器両方の線量制約を満たせず、難しさを実感しました。しかし、今まで知らなかった Normal Tissue Objective などの最適化パラメータや Tips の活用法について臨床画像を用いて実習でき、非常に有意義な講習会だと感じました。

懇親会では仕事とは関係のない話や他病院の現状・VMAT 検証の方法論などの仕事の話を通して、他病院の医学物理士や診療放射線技師の方々と交流でき、楽しい時間を過ごすことができました。

今回、講習会を通して学んだ知識や新しく知った技術を業務に活かし、今までと違う視点で治療計画に関わっていきたいと思います。長野県では治療計画の立案はほとんど医師ですが、年々医学物理士の人数が増していること、医学物理士の国家資格化が話題に挙がる実情、更に今回の講習会で体験した治療計画の複雑さを踏まえると、今後当院でも医学物理士が IMRT や VMAT の治療計画立案に関与する可能性があるのではないかと考えます。今後も、治療計画に関して研鑽を続け、より臨床で必要とされる医学物理士を目指し精進したいと思います。

この講習会を企画して下さった講師の先生方をはじめ株式会社バリアンメディカルシステムズのスタッフ皆様のおかげで、とても勉強になり有意義な2日間を過ごすことができました。また、講習会に参加するにあたり、医学物理士会より講習会参加補助を受けさせていただきました。関係者の方々に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

